

研修報告書 No. 1

研修先： 土佐市民病院

私は 2025 年 4 月に高知県の土佐市民病院にて 1 ヶ月間地域医療研修を行いました。この報告書では、研修中に学んだこと、感じたことをまとめさせていただきます。

土佐市民病院の研修では、内科外来を中心に、外科・小児科・耳鼻科の各外来と、病棟管理、救急対応や当直など、幅広い診療業務に携わることができました。特に内科外来では 1 つの診察室を一人で受け持ち、初診の患者さんに対して医療面接、診察、検査を行い、それを踏まえて治療まで行うという極めて実践的な経験を積むことができました。これまでの研修では外来を担当する機会は少なかつたため、当初は苦労もありましたが、日を追うごとに診療の流れがつかめるようになり、医師として大きく成長できたと実感しています。

基本的には発熱や腹痛などのいわゆる common disease が多いですが、一部の隠れた critical な疾患を見逃さずに診察する難しさを知りました。外来では初対面の患者さんに限られた時間の中で効率よく情報を聞き出す必要があり、そこから検査や治療につなげて最後には納得して帰っていただくためのコミュニケーションスキルの重要性も再認識しました。入院加療が必要となった患者さんは主治医として、病棟管理はもちろん、患者と家族への説明まで行いました。分からないところは上級医の先生に相談しながら主体的に診療できる環境だったため、大きな自信につなげることができました。

研修では、地域ならではの課題にも直面しました。土佐市は高齢化と人口減少の問題を抱えており、東京ではあまり見かけなかった 90 歳や 100 歳の方も珍しくありませんでした。元気な高齢者も多い一方、入院して病気は治ったとしても元の場所に帰ることができない事例も経験しました。病院は単に治療だけを行う場ではなく、看護師、ソーシャルワーカー、訪問医療等の多職種間で連携して退院後の生活を見据えた支援をしてこそ、地域医療が成り立っているのだと実臨床の中で学ぶことができました。

また、土佐市民病院は公立病院としては珍しい黒字を達成している病院であり、診療では検査・治療に対応する病名を登録すること、診療報酬の取り漏れを防ぐ工夫など、現場における経営意識の高さを感じる機会が多くありました。健全な財政が安定した地域医療を支える根幹であることを肌で実感しました。

その他麻酔科として麻酔管理を経験させていただいたり、外科で手術に参加したりと興味のある分野でも積極的に研修することができました。とても自由度の高い環境で、所属病院では得難い経験を積むことができました。土佐市民病院ではすべての診療科の医師が揃っているわけではないため、特に当直帯などでは自分の診療科以外の主訴で来院されても対応しなければなりません。スタッフ間の垣根が非常に低く、どの診療科の先生にも気軽に相談できる風通しの良さが印象的でした。

生活面でも、高知県の自然と文化にたくさん触れることができました。山、川、海どれをとっても豊かな自然が広がっており、特に四国カルストの絶景は忘れられません。また海産物を始め、野菜や畜産物、地酒など地元料理を存分に楽しむことができました。

今回の研修を通して、自身の臨床能力はもちろん、患者さんとの向き合い方、チーム医療のあり方を見直す機会となりました。この貴重な経験は指導して下さった先生方、外来・病棟スタッフの皆様、そして地域の皆様のおかげです。改めて心より御礼申し上げます。土佐市民病院での研修経験を糧に、医師として成長できるよう努力していきたいと思えます。